

# 支店長の わがまち紹介 第70回



守谷野鳥のみち

## 守 谷 市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県守谷市です。守谷支店長が守谷市長 松丸修久氏にお話を伺いました。

守谷市は「筑波経済月報」第23号（2015年6月）第23回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

### ■住みよいまちNo.1 守谷

本市は、首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)で秋葉原まで最短32分、常磐自動車道谷和原ICへのアクセス性にも優れた、交通インフラの利便性が高いまちです。また、まちの周囲には利根・鬼怒・小貝の3つの清流が流れ、子どもがのびのびと遊べる公園も多く、緑豊かな美しい景観を有しています。

このようなことから、本市は東洋経済新報社が毎年発表する全国都市の「住みよさランキング」において、2008年に全国第1位を獲得しています。また、2007年から2018年まで、茨城県内では常に第1位をキープし、さらに、日経BP総研が運営するウェブサイト「新・公民連携最前線」が「安心・安全」、「快適な暮らし」などの



守谷市長 松丸 修久 氏



守谷支店長 海老根 洋一

8分野、合計32の評価項目で調査・集計した「シティブランド・ランキングー住みよい街2017ー」においても、東京都武蔵野市、福岡県大野城市とともに、全国第1位を獲得しています。

そのため、本市の人口は増加し、生産年齢人口も増加傾向にあるなど、他市町村と比べて非常に恵まれたまちとされています。

しかし、残念ながら、本市の推計では、今後10~15年の間に人口増のピークを迎え、その後は減少すると考えられています。当然ながら、生産年齢人口や税収も減少していくものと思われます。

## ■ 100種類以上の野鳥が訪れる「守谷野鳥のみち」

本市へ移住した方に、タウンミーティングやアンケートなどで移住理由を尋ねると、「教育水準が高い」、「緑が多い」という回答が多く返ってきます。

本市は都心から30km圏内という近さにありながら、60%もの緑被率を有しています。これは、今後も残していかななくてはならない本市の貴重な財産です。

そのため、守谷城址と中心市街地にある森や湿地帯とを散策道で結び、野鳥と共生することで「自然の尊さを学び、育て、本市をより住みやすいまち」にする「守谷野鳥の森散策路プロジェクト」を2001年に立ち上げました。市民ボランティアである本市の観光協会が主体となって、市内小中学校の児童・生徒、協力企業などの方々が力を合わせ、17年もの長い年月をかけて取組んできたこのプロジェクトは、市民力の強い本市だからこそできたものだと感じています。沼地の凍る寒い冬の日も、日差しが照りつける暑い夏の日も、一生懸命整備する姿には、本当に胸を打たれました。

2017年からは、地方創生推進事業として、木道整備が開始され、昨年12月、約720mの木道と林間歩道を含め総延長4kmにも及ぶ「守谷野鳥のみち」が完成しました。完成を記念し、12月中旬からの1ヵ月間、協力企業である首都圏新都市鉄道には、車両内に中吊り広告を掲示していただきました。これを期に、現在5対1の割合となっている通勤ラッシュ時の上下の利用比率を、より流入傾向に強めたいと考えています。

## ■ 常に先行することでより質の高い教育環境を整備

今から15年ほど前の話になりますが、私が市議会議員になった際、公約どおり、各小中学校に1名のALT(外国語指導助手)を配置しました。当時は、このような取組は全国でも珍しく、理解を得るために大変苦労しましたが、これがきっかけとなり、本市の子ども達の英語に対する距離感は、とても近くなりました。本市の子ども達は小学1年生から毎週1時間、ネイティブな英語を耳から覚えており、カタカナで標記できるような英語は使いません。2019年度からは、5~6年生がさらに週1時間授業が増えることが決まっています。今後、堂々と英語で語り合える子ども達がさらに増えていくと確信しています。

本市の教育は、保幼小中高の一貫教育「きらめきプロジェクト」などで、全国的に評価されてきましたが、2019年度より、新たに「守谷型カリキュラム・マネジメント」を導入します。これは、「働き方改革」に伴う子ども達の環境変化に対応するもので、「学習効果の最大化」と「安全・安心」の確保を目的としています。

次期指導要領では、小学4年生以上は毎日6時間目まで授業になります。中学生が放課後に部活動をした場合など、冬は真っ暗な時間帯に帰宅させることになり、とても不安を感じています。そこで、前・後期制を導入し、5時間目で終了する日を週3日確保しました。幸い本市は、各小中学校の全教室にエアコンが設置済みのため、夏休みを1週間短縮することが可能です。また、前・後期制にすることで始業式・終業式を減らし、さらに県民の日や創立記念日を通学日とすることで、必要な授業時間を確保します。

前・後期制の導入は、先生方の負担軽減にも繋がります。6時間目を終えて事務処理を行うと、20~21時まで働くことになってしまいますが、今後は若干早く帰宅できると思います。また、2018年度から部活指導員を配置しているため、これまで全く経験のない部活動に対して指導を行ってきた先生方の負担も軽減できています。



きらめきプロジェクト

本市は、これまで国が行ってきた教育に関する施策のほとんどを、他の市町村に先駆けて行ってきました。その甲斐もあって、指導者を含め優秀な人材がどんどん集まり、さらに新しい取組が行える環境になっています。

国は2020年度からプログラミング教育を実施すると発表していますが、本市は2019年度からスタートします。人の成長はモチベーションがどうかで大きく変わります。他へ研修に行くよりも

自分達が先駆者として指導する立場になることで、モチベーションやプライドは間違いなく上がることでしょう。そして「次も頑張ろう」という気持ちになります。子ども達は大人以上に敏感です。先生方の情熱が伝わることで、子ども達も伸びていくという好循環が生まれていくと思っています。

### ■「地域主導・市民主導・協働」でより住みよいまちへ

ベッドタウンとして本市の人口が増加し始めたのは、今から約40年前のことです。当時移住してくださった方々が住む地区は高齢化が進んでいますが、逆に、子育て世代が増えている地区もあり、地域によって世代が分かれ、望む生活環境も違ってきています。このような状況下で行う均一した行政サービスは、市民の需要を満たすことができないため、各地域に合うオーダー型のサービスが必要になってきていると感じています。しかし、これを全て行政の限られた人員で対応することは不可能です。今後は行政と市民が役割分担をして、お互い補完的な役割を果たす「地域分権」を取入れたまちづくりが必要だと考えています。

そのため、本市を6地区に分け、それぞれの地域で、「まちづくり協議会」を設置しました。既に3地区は設立総会が終わり、今後は、残り3地区の設立とともに、地域分権の「展開」へ向けて進めてまいります。

「まちづくり協議会」は、昔で言うところの「町役場」のような存在です。商店・企業・町内会などのそれぞれの団体が、その地域の組織の中心となって、その地域のまちづくりに対して、基本的なコンセプト掲げ、実行していくこととなります。行政は財政的支援や人的支援を行うとともに、その地域では解決できない事象に対して助成を行います。

これは県内でも初めての取組で、これまで国が進めてきた「市町村合併」とは全く逆方向の施策のため、一見すると時代に逆行するようにも見えます。しかし、人口が減少するこれからは良いことばかりを伝えるのではなく、常に市民と情報を共有し、「われわれはここまでしかできない」ということを明確に示す必要があります。その一方で、老朽化した学校などの施設のリニューアルや現在借地となっている「守谷野鳥のみち」を安定した環境維

持のために買い取るなど、必要な部分に対応していきたいと考えています。

また、子育て支援やごみの収集日・分別、イベントなど市民生活に関連する情報をスマートフォンやタブレットなどで簡単に入手できる市民生活総合アプリ「Morinfo(もりんふお)」を2018年1月より稼働させました。本アプリは、情報の公開だけでなく、カメラとGPS機能を活用することで、道路の陥没状況の通報など(以下、レポート投稿)ができ、大規模災害時には、安否確認や被災状況の把握、援助物資や避難所情報の配信などにも活用できるなど、行政と市民の情報の共有促進を目的としたものです。

レポート投稿は、既に250件を超える投稿をいただいております。行政が気付かなかった場所の改善に活かされています。また、市民も進捗状況を確認することができます。

今後も協働意識を高めながら、多様な公聴活動で市民の意見の収集、情報の共有化を図り、市民がより住みよいと感じるまちへ向け、取組んでいきたいと思っております。

### ■筑波銀行に期待すること

2018年、本市庁舎では、ホップでグリーンカーテンを作り、夏場を快適に過ごしました。その後、そのホップや富士山麓の伏流水、オレンジピール、コリアンダー等を使用して、爽やかでフルーティな味わいの「MORIYA GREEN BEER」を製造しました。この取組は、包括連携協定を締結した株式会社福山コンサルタントからの提案が始まりでした。



MORIYA GREEN BEER

このように、筑波銀行からも、行政では考え付かないような知恵や銀行の持つ様々な情報をご提供いただければと思います。

また、近年、生涯学習に関する活動などが活発になっていますが、今年4月1日より中央公民館が改築工事のため休館となります。本市はホールや会議室などの施設が少ないため、ぜひ、銀行が所有する会議室などをご提供いただければ幸いです。

取材日：2019年3月12日

写真提供：守谷市